

所 信 表 明

令和3年10月11日

被推薦者(自署、押印)氏名

細井裕司 

(所 信)

1. はじめに

これまで多くの取り組みを実行できましたのも、すべての教職員ならびに学生の皆様のお陰と感謝申し上げます。私は、奈良医大を皆様が生き生きと活動できる大学にするだけでなく、人材と資金が集まる日本をリードする大学を目指して、新しい事業を発想し実行してまいりました。しかし、多くの事業はまだ道半ばです。次の4年間で完成させ、これらの事業をより一層発展させていただける後継者の方に引き継ぐ責務があると思っています。以下にすでに着手している具体例を挙げましたが、この他にも時代の変化に対応した取り組みを行っていきたいと思っています。◎を付けたものは、私自身が発想したオリジナリティーの高いものです。

2. 最近行動を開始し次の4年間で完成させたい事業 ()内は現状

- ◎1) 将来の奈良医大施設の高層化のため、建物の高さ制限の緩和(検討に着手)
- ◎2) 難病克服キャンペーンを全国区に(企業協賛、セミナー、映画祭を企画実行)
- ◎3) 大阪・関西万博において奈良医大の存在感を発揮(万博事務総長と協議)
- ◎4) 反転授業など新しい教育方針の浸透(教授会で議論)
- ◎5)アントレプレナーシップの育成(学内に呼びかけ)
- ◎6) 奈良医大発ベンチャー企業(新規2社創設)

3. すでに一定の評価を得ているがより発展させる事業 ()内は現状

- ◎1) 臨床英語の強化(英語による医学教育開始)
 - 2) 国内外機関でのリサーチクラークシップ(学生がCell誌などの著者に)
 - 3) 看護学科の充実(教授職の新設)
 - 4) 研究力の向上(科研費獲得額:2018年度2億7120万円が2021年度3億3770万円に増加)
- ◎5) 外科マスターなど臨床制度(外科マスター医7名)
- ◎6) 学長から学生や保護者への手紙等による働きかけ(マッチング率向上に貢献)
- ◎7) 新型コロナウイルス感染症対策本部制度(先生方のお陰で厚労省の「新型コロナ対応についてのヒアリング」対象となった9大学病院の一つに指定)
- 8) 法人の働き方改革、処遇の改善(コロナ対応手当の全員支給、タスクシフト)
- 9) 学内情報発信(最近2年間で学長からのメール14回、MBTニュースレター75回など)

- 10) 奈良医大の施設整備事業（新キャンパス整備中、基礎医学棟ならびに新外来棟整備の検討）
- 11) 臨床研究中核病院（環境整備）
- ◎12) 未来への飛躍基金（研究、教育に貢献）
- ◎13) 橿原外キャンパスの拡充（全国6カ所に大学院など設置）
- ◎14) 大企業の研究所が集積するけいはんな地域との連携強化（けいはんな RC 推進協議会を連携拠点として医工連携活動）
- ◎15) コロナ克服キャンペーンによる社会貢献（啓発活動の全国展開）
- ◎16) 外部への情報発信、メディアへの働きかけ（NHK などとの協力関係構築）
- 17) 県との関係強化（県知事との定期面談）
- ◎18) MBT 構想、全国区のステージへ（217社が奈良医大と連携活動）

4. おわりに

住居医学寄附講座創設、研究医養成コース新設、後期入試重視など、私が学長就任以前に発想・実現した事業、学長第1期、第2期で始めた事業の多くは軌道に乗り発展しています。今回、第3期での学長としての活動をお認めいただけましたなら、より一層これらの事業を発展させ、奈良県立医科大学を全国的に存在感がある特別な大学に進化させるべく、全力を尽くして学長の職責を果たすことを決意し、所信表明といたします。

(注) 1 規格はA4版とし、字数は、1,200字程度とする。（行間は適宜変更可）
2 この様式の内容は、学内に公示等されます。